

第2回 高知県史編さん委員会

日時：令和5年8月2日（水）

13時30分～15時00分

場所：高知県庁本庁舎2階 第2応接室

出席委員：濱田委員長、藤井副委員長（監修者）、中平委員、宅間委員、藤田委員、
宇佐美委員、池田委員、長岡委員、井上委員、渡部委員、羽賀委員、大門委員
鋤柄委員、常光委員、岡本委員

事務局：岡村部長、小笠原副部長、中内課長、山崎企画監、土居課長補佐、
目良チーフ、紀ノ國主幹、小林主事、弘田主事、坂本専門員

配布資料：委員名簿

配席図

【資料1】高知県史編さん事業概要

【資料2】民俗編の刊行計画の変更

【資料3】高知県史の掲載内容に関する主なご要望

【資料4】各専門部会の活動報告

【資料5】編集方針作成案

【参考資料1】高知県史編さん基本方針

【参考資料2】高知県史編さん委員会設置要綱

【参考資料3】高知県史の編さん計画

1 開会

今年度より新たに着任された委員の方々の紹介

2 委員長（高知県知事）挨拶

濱田委員長より開会挨拶

- ・県史の編さんが相当の時間と予算と労力をかけて、数十年ぶりに行われる。学術的に素晴らしいものにしたいと同時に、県民の皆さんの財産となるような、高知県のアイデンティティーを示すことができるような、県史になればありがたい。
- ・最終的な目標を見据えながら、進行管理をしっかりと統括しながら進めていきたい。

3 副委員長（高知県史監修者）挨拶

藤井副委員長より挨拶

- ・各部会の精力的な調査活動により、新たな資料が見いだされている。県史にいかにか活かしていくかが課題。この委員会でも議論して進めていきたい。
- ・また、資料調査によって収集された資料を将来に向けて伝え残していくことも、この事業のもう一つの柱になる。調査の幅を広げ、多くの資料を集積したい。

4 協議・報告事項

- (1) 高知県史の編さん体制について
- (2) 高知県史の編さん計画について
- (3) 高知県史の掲載内容に関する要望について

協議時間の都合上、(1) から (3) までの議題を事務局より一括説明。

資料1～3にて、事務局より説明を行う。

- ・それぞれ時代や分野毎に順次、専門部会を設けており、本年度新たに古代・中世、現代部会の2部会を新たに設置した。
- ・民俗部会において、聞き取り対象の高齢化、取り使う資料編には多くの人員を要する大規模調査を複数回実施する必要があること、こういった観点から当初の刊行計画を変更することとしてよいか。(資料編②を本編2巻刊行後に着手する)
- ・県史の編さんは20年間の長期にわたる大規模事業であり、県民の皆様からの関心や期待も高い。県民の皆様から寄せられた意見や要望を随時各専門部会にて共有を図り、掲載内容について検討を進めていく。

各委員質疑なし

(4) 各専門部会の調査活動について

資料4について各専門部会長(近世、近代、民俗、古代・中世、現代)より説明。

昨年度より設置された3部会(近世、近代、民俗)による活動報告と今後の展開、本年度より設置された2部会(古代・中世、現代)による今後の調査計画について報告。

(近世部会)

- ・令和4年9月、令和5年3月に部会委員、県内外の大学院生が集まり部会調査を実施。芸西村の旧村で村役人を勤めた山中家文書、足達家文書の調査に着手し、資料の採録・撮影が終了した。
- ・年間を通じて、計4回の専門部会を実施。調査の方針や今後の調査計画、資料編に向けた作業の内容について協議を行った。
- ・今年度は年3回の専門部会を開催し、一層具体化した議論と共同作業を行い、資料編に向け取組をより進めていく。また、年2回の部会調査を予定しており、関田家文書を調査を行う予定。そして、部会委員の専門に合わせた個人調査も積極的に進めていく。
- ・資料編1は、山内家文書、五藤家文書、加賀野井家文書などの武家文書を中心に内容を検討していく。

(近代部会)

- ・資料編3冊の内、資料編1は廃藩置県から市制町村制施行まで、資料編2は市制町村制施行から第一次世界大戦まで、資料編3は終戦までといった時期区分を検討しており、

編年・ジャンル別に資料を配列する。

- ・昨年度は計4回の専門部会を実施し、長期的な刊行計画について協議した。
- ・合同調査を2回実施。令和4年9月には旧池川町役場資料、令和5年3月には安芸市の旧役場文書を対象とし、選定資料の撮影が完了した。
- ・また委員個人調査も進んでおり、旧海南中学校資料、寺石正路資料、旧弘岡上村役場資料等の調査を今後も継続して行っていく。
- ・近代編の編集基盤とするため、国立国会図書館所蔵の『職員録』所収名簿のデータ化を進め、戦前期高知県職員録の作成に取り組んでいる。
- ・今年度は計4回の専門部会、年2回の合同調査を計画している。合同調査では安芸市立歴史民俗資料館所蔵の旧役場文書、戸長役場文書の調査を予定している。

(民俗部会)

- ・資料編の構成について、資料編1は主に口承を中心とした「ことばと伝承」、資料編2は生活の必要から使用してきた器具や造形物を中心とした「民具」、資料編3は文献資料等に記された記録を収集するなど「文字」を中心することと想定している。
- ・本編1では、地域性に着目し、人々の生業や習俗の特色を重点的に取り扱う。本編2では従来の民俗分類を基準とした、高知県の民俗を総合的に、網羅的に記載するといった案が部会内で検討されている。
- ・「土佐民俗」全100号のリスト化が完了。現在は市町村史の民俗関連記事、口承文芸についての単行本リスト化作業を進めている。
- ・昨年度の7月23日～同月24日に中土佐町人権啓発センターと高知県立歴史民俗資料館にて講演会を開催し、地元の方々との情報交換を図った。
- ・また、令和4年10月に中土佐町での合同調査、令和5年3月に中土佐町鎌田の倉庫に保管されている民具の調査を行い、民具のクリーニングや撮影（計470点）等を行った。
- ・今年度は計4回の専門部会を開催予定。また、令和5年10月に山間地域の梶原町での合同調査、同年12月に県外調査、令和6年3月に中土佐町の民具調査を実施する予定である。

(古代・中世部会)

- ・旧県史では、江戸時代に編さんされた編纂物がベースとして考えられており、悉皆調査が十分になされていない。今回の県史では、県内にどういった資料が残されているのか、伝来しているかということを確認し、原本資料調査を徹底することに主眼を置きたい。
- ・日記を中心とした記録、典籍や文学。また、海外との交流を示す資料、和歌や物語などを視野に入れて検討していきたい。
- ・県民の皆様方や全国的にも関心が高い長宗我部の課題について、資料の収集方法等の検討を始めている。直接高知県に関係しない内容も可能な限り含み込むことで、高知県史を見ると、長宗我部の動きがおおよそ分かるようにしたい。

- ・調査、収集した資料はデジタル化を進め、本という形だけでなく、県民の皆様方にネットワーク上でアクセスいただくことも意図していきたい。
- ・東京大学史料編纂所と高知県にて、受託研究契約を結び、編纂所が所有する明治以降の資料調査で蓄積した複製資料を反映させていく。
- ・本編、資料編の構成について現在検討中。今後発足予定の考古部会や文化財部会と密接に絡む部分について調整を開始している。
- ・年次計画として、まず基礎的な目録を整理していく。次に、目録に記載のある所蔵期間や所蔵者に対し働きかけ、悉皆的な調査を進めていく。テキストデータの整備や関連データの収集を進め、令和8年度より実際的な編さん作業に取り組んでいきたい。

(現代部会)

- ・時代別としては一番新しい部会であり、現在生活されている県民の方々と直接関わり合いのある時代。
- ・高知県史編さん基本方針に掲げるとおり「県民の暮らし」に主眼を置き、要望に応えるような方向性を追求していきたい。また、国内外の歴史的な流れや地域の特色を重視しながら、編さんを進めていきたい。
- ・資料編3冊の内、2冊は基本資料を収集をした編さん、1冊は高知県の現在の特色を示すテーマでの編さんを予定している。資料編の刊行にあたって、文字資料の収集に加え、聞き取りや動画作成を検討し、現代の相応しい内容や特色を検討していきたい。8月に開催を予定している部会で具体的な議論を本格的に進めていく。
- ・本年度は年2回の合同調査を予定しており、夏に幡多地区で調査を実施する計画を立てている。
- ・地域連携や人材育成を重視している。大学生や地元・在野の方、地元のキーパーソンの方などとの連携を広げ、関連団体と協力し調査を進めていく。また、聞き取りや動画の撮影を内容とした講座を開催し、担い手の育成を進めていく。

各委員質疑なし

各専門部会の報告後、事務局による活動報告を行う。

- ・現在までに29の市町村を訪問し歴史資料の所在、情報の把握に努めている。
- ・今後の資料調査を支える人材、ひいては将来にわたって本県の歴史研究や調査を担う人材の育成は本事業の目的の1つである。昨年度は高知城歴史博物館のご協力の下、撮影方法を主とした養成講座を計2回実施。修了生の一部は、資料撮影や簡単なくずし字の活字化などに従事いただいている。

各委員質疑なし

(5) 編集方針の作成について

資料5にて、事務局より説明を行う。

- ・各専門部会が担当する分野や調査の進展状況、旧県史で把握した資料の残存状況などは時代毎に異なっており、それに従い抱える課題や状況も異なってくる。
- ・今回の県史では、各専門部会における課題を整理し、どのような視点で編さんを目指すか、今後の調査や研究を担う人材を育てていくか、実際の編さん業務を進める上の一定の方向性を示していきたいと考えている。
- ・県史編さん計画の中で最も最初に発刊を予定している近世部会をモデルに編集方針案を作成。今後、近世部会と改めて協議を行い、作成に努めていく。
- ・今後は近世部会の方針を参考とし、他の専門部会での方針作成を進めることで、横展開を図っていきたい。各専門部会の特色が現れる編集方針になる。

各委員質疑なし

6 閉会

(藤井副委員長コメント)

- ・各部会から、これまでの経過と現状と今後の予定をそれぞれお話いただいた。皆さん熱心に取り組んでいただいている。
- ・部会ごとで多少方向性の違いもあるかと思うが、お互いの意見・考えを出し合って調整して、進めていきたい。また、その結果をこの編さん委員会に報告して、委員の皆さまの意見もぜひ頂戴したい。今後ともよろしく願います。

(濱田委員長コメント)

- ・各部会からの活動状況、今後の活動方針について説明をいただいたところ、各部会それぞれ問題意識を持ちながら、部会の認識を一つにして新しい県史編さんに取り組んでいただいていることが確認でき、非常にありがたく心強く思っている。
- ・令和2年度までの長期プロジェクトであり、県民の皆さんに成果を分かりやすく示すことが求められる。(例えば観光面では長期滞在でその土地の文化や歴史を楽しむ方向に嗜好が移っている。) 個別の文化や歴史的な深み・背景を掘り下げて検証し、最終的に高知のアイデンティティが表れるような県史編さんを期待したい。
- ・新たな資料が出てくれば、結果的に当初の編集方針を改める必要もあるかもしれない。編集委員会では部会の活動状況を共有し、多様な視点からの作業や議論を重ねて、より良い編さんのサイクルが、この編さん委員会や編集委員会で進んでいくことを期待する。
- ・今後も毎年度県史編さんの方向性について、分かりやすく示していただきたい。委員の皆さまのご協力をお願いします。

(以上)